



聖霊降臨の主日 (ヨハネ 14:15-16,23b-26)

空気が抜けるビーチボールは外からのパッチが必要

聖霊降臨の主日を迎えました。クイズです。先週「主の昇天」を祝いましたね。「主の昇天」はなぜ、「主の昇天の主日」と言わないのでしょうか？また来週は「三位一体の主日」で、再来週は「キリストの聖体」です。「キリストの聖体の主日」とは言いません。なぜでしょう？

さて、聖霊降臨の出来事を、例えを使って考えてみたいのです。私が部屋の片付けをしていて見つけたビーチボールを材料にしたいと思います。いつ購入したかも覚えていないのですが、世界地図をあしらったビーチボールでして、楽しみながら世界地図を覚えられる優れたものです。

しかしいざ空気を入れて膨らませてみると、残念な結果になってしまいました。いくら空気を入れても、時間が経つとしぼんでしまうのです。自転車や車のタイヤチューブで、どこかに穴が開いていて、何度空気を入れてもしぼんでしまう経験がおありでしょう。車は簡単ではありませんが、自転車はちょっとした道具とコツを覚えれば外からパッチを当てて修理することができます。

先ほどの地球儀のビーチボールに戻りますが、いくら空気を入れても、どこかに穴が開いていればそこから空気が漏れ、しぼんでしまいます。目には見えない小さな穴であっても、外から塞ぐ、覆わなければ空気は満たされないのです。

これは、聖霊降臨の出来事をうまく表していないでしょうか。弟子たちは聖霊を注がれるまで、家の中にいました。閉じこもっていたと言ってもよいかも知れません。イエスは弟子たちに、「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ 16・15)と命じられていたはずですが、自分たちの力だけでは実現できませんでした。力を蓄えようとしても、どこかで漏れて、しぼんでしまっていたのです。人間の弱さが、見えない小さな穴となっていたのでしょ。

この状態では、いくら努力で満たそうとしてもダメで、外からの助け(パッチ)がなければ満ちることはできません。この外からの助けこそが、約束された聖霊だったのです。聖霊は私たちに宣教する力を満ちあふれさせるパッチ、外からの助けだったわけです。

もちろん人間の努力も無力ではありませんが、人間はどこかに弱さがあるので、努力だけで宣教する人になろうとしても、それはいつになっても使えないビーチボールのままなのです。宣教を恐れて閉じこもっている弟子を宣教へと促したのは、ほかでもない聖霊だったのです。

私たちは皆、信じている信仰を宣教しなければなりません。しかし弱さがあります。その弱さは努力で乗り越えるものではなく、聖霊によって赦され、包まれて力を発揮する個性となるのです。

引っ込み思案、口下手、せっかち、おっちょこちょい等。いろんな欠けている部分を聖霊は穴を塞ぐパッチになってくださり、一人一人の個性に変えてくださるのです。聖霊の照らしをミサの中で願い、私も信仰を伝える者とならせてくださいますと願うことにしましょう。